



# 2014 年度第 2 四半期決算報告書

## 参考和訳

プレスリリース  
2014 年 7 月 31 日、パリ発

### 米司法当局との包括的和解に関わる一時費用

2014 年度第 2 四半期に 59 億 5000 万ユーロを計上：

- 罰金\*： 57 億 5000 万ユーロ
- 是正計画： 2 億ユーロ
- ⇒ 株主帰属純利益： - 43 億 1700 万ユーロ

特別項目を除いた純利益：19 億ユーロ\*\*

- リテールバンキングの営業収益は安定推移
- インベストメント・ソリューションズは着実に成長
- CIB は増収、アドバイザリーおよびキャピタル・マーケットの業績は極めて好調

事業部門の営業収益合計：2013 年度第 2 四半期比 +4.0%\*\*\*

### 営業総利益が拡大：

2013 年度第 2 四半期比 +6.1%\*\*\*

### リスク費用は当四半期に減少：

2013 年度第 2 四半期比 -16.8%\*\*\*\*

### 盤石なバランスシート

- 自己資本比率は 2014-2016 年度事業開発計画の目標に対応  
バーゼル 3 基準全面適用のエクイティ TIER 1 比率：10.0%
- 流動性準備金は極めて潤沢  
2014 年 6 月 30 日現在 2440 億ユーロ
- リテールバンキングの預金残高は成長を持続  
2013 年度第 2 四半期比 +4.5%\*\*\*\*

\* 既に設定済みの引当金を除く； \*\* 米司法当局との包括的和解に関わる一時費用およびその他の特別項目を除く； \*\*\* 連結範囲変更および為替レート変動による影響を除き、かつ特別項目を除く； \*\*\*\* 連結範囲変更および為替レート変動による影響を除く



2014年7月30日にBNPパリバ取締役会が開催され、ボードゥアン・プロ会長が議長を務めるなか、当グループの2014年度第2四半期の業績が検討され、また、当上半期に関わる中間決算報告書が承認されました。

### 一時項目が重大な影響を及ぼすも、かかる特別項目を除けば純利益は19億ユーロの好業績を達成

当四半期の連結決算には、特定のドル資金決済に関わる協議の末、米司法当局とグループの間で至った包括的和解<sup>1</sup>による影響を含んでいます。和解内容には、罰金として総額89億7000万米ドル（66億ユーロ）をBNPパリバが支払うことなどが含まれています。既に設定されている引当金を踏まえ、グループは当四半期に総額59億5000万ユーロに上る一時費用を計上しました。その内訳は、57億5000万ユーロが罰金に関わるもので、残部の2億ユーロは、包括的和解とともに発表された是正計画に関わる将来の費用に備えるものです。

これらの特別項目を除くと、グループの当四半期の業績は極めて好調でした。

当四半期のグループの営業収益は95億6800万ユーロとなり、前年同期比2.3%の減収でした。当四半期の営業収益には、純額で-3億5300万ユーロに上る2つの一時項目が含まれていました。その内訳は、フィクスト・インカム部門において導入された調達評価調整（FVA：Funding Valuation Adjustment）による影響が-1億6600万ユーロ、また、自己負債の再評価に関わる修正額（OCA：Own Credit Adjustment）およびデリバティブに関わる債務価値調整額（DVA：Debt Value Adjustment）が合計で-1億8700万ユーロとなりました。なお、前年同期には、収益の一時項目として合計+1億5000万ユーロが計上されていました。以上の一時項目を排除し、また連結範囲変更および為替レート変動による影響を除くと、当四半期の営業収益は前年同期比4.8%の増収でした。

事業部門合計の営業収益は、当四半期に前年同期比4.0%<sup>2</sup>増加しました。これを部門別にみると、リテールバンキング事業では安定推移<sup>3</sup>、インベストメント・ソリューションズ事業では順調な伸びを示し（+5.0%<sup>3</sup>）、そしてコーポレートバンキング・投資銀行事業（CIB）では大幅増収（+14.6%<sup>2</sup>）となりました。

営業費用は当四半期に65億1700万ユーロに上り、前年同期比4.3%増加しました。当四半期の営業費用には、Simple & Efficient計画に関わる一過性の変革費用1億9800万ユーロが含まれています（前年同期は7400万ユーロ）。かかる変革費用を除き、また連結範囲変更および為替レート変動による影響を除くと、当四半期の営業費用は前年同期比4.1%増加しました。

事業部門合計の営業費用は、前年同期比3.9%<sup>3</sup>増加しました。これは事業の成長に釣り合うものであり、とりわけインベストメント・ソリューションズおよびCIBの業務の伸びを反映しており、またSimple & Efficient計画の影響も含んでいます。事業部門別では、リテールバンキング事業で0.8%<sup>3</sup>の増加、インベストメント・ソリューションズ事業で3.7%<sup>3</sup>の増加、そしてCIB事業で11.9%<sup>3</sup>の増加となりました。

営業総利益は当四半期に前年同期比13.8%減少し、30億5100万ユーロとなりました。特別項目を除き、また連結範囲変更および為替レート変動による影響を除くと、グループの営業総利益は当四半期に6.1%増加し、また事業部門合計では4.3%の増加となりました。

グループのリスク費用は当四半期に前年同期比18.1%減少し、8億5500万ユーロとなりました（融資残高の53bpに相当）。なおリスク費用は2013年の年初以来、全体的に安定傾向にあり、グループの確かなリスク管理能力を反映しています。

米司法当局との包括的和解の影響を受けて、当四半期の税引前損失は-36億ユーロとなりました（対して、前年同期は税引前利益27億1300万ユーロを計上）。

<sup>1</sup> 2014年6月30日に発表。2014年度中間連結財務諸表の脚注3.gを参照。

<sup>2</sup> 連結範囲変更および為替レート変動による影響を除き、また特別項目を除く。

<sup>3</sup> 連結範囲変更および為替レート変動による影響を除く。



特別項目を除き、また連結範囲変更および為替レート変動による影響を除くと、当四半期の税引前利益は前年同期比 15.8%の増益でした（事業部門合計では 11.4%の増益）。

以上から、当四半期の株主帰属純損失は-43 億 1700 万ユーロとなりました（対して、前年同期は株主帰属純利益 17 億 6500 万ユーロを計上）。一時項目による影響を除くと、当四半期の株主帰属純利益は 19 億 2400 万ユーロに上り、前年同期比 23.2%の増益でした。

米司法当局との包括的和解に関わる費用の最終的な影響を除くと、自己資本利益率<sup>1</sup>は年率換算後で 8.2%となりました。また、当四半期の 1 株当たり純利益は 2.51 ユーロとなりました。

BNP パリバグループは盤石なバランスシートを有しています。グループの自己資本は 2014-2016 年度事業開発計画の目標に沿った水準にあり、バーゼル 3 基準全面適用によるエクイティ Tier 1 比率<sup>2</sup>は 10.0%を確保し、また、バーゼル 3 基準全面適用のレバレッジレシオ<sup>2</sup>は 3.5%<sup>3</sup>に達しています。さらに、グループの即時利用可能な余剰資金は 2014 年 6 月末現在で 2440 億ユーロに上っており（対して、2013 年 12 月末現在では 2470 億ユーロ）、これは短期資金調達との関係で 1 年以上の余裕資金があることを意味します。

\*  
\* \*

BNP パリバグループは現在、内部統制システムの大幅な変更に取り組んでいます。

リスク管理部門および内部監査部門に合わせ、コンプライアンス部門および法務部門をグループ直下に統合し、監視・統制機能の独立性を確保します。

また、最高経営責任者（CEO）の下、監視活動と統制活動の結束と協調を任務とする監視統制委員会（Group Supervisory and Control Committee）が設置されます。加えて、要注意セクターや国を特定し監視するとともにグループの職務規範に関する行動を監視する行動規範委員会（Group Conduct Committee）も設置されます。

さらに、コンプライアンスおよび監視活動のための資源および手続きも強化されます。これらの対策は全て、米司法当局との包括的和解に関する発表時点で明らかにされた是正計画に追加するかたちで実施されます。

2014 年度上半期全体で、グループの業績は米司法当局との包括的和解に関わる一時費用である、総額 59 億 5000 万ユーロの影響を受けました。全ての一時項目による影響を除くと、当上半期の株主帰属純利益は 35 億 3500 万ユーロに上りました。

当上半期の営業収益は 194 億 8100 万ユーロとなり、2013 年度上半期と比べて 1.4%の減収でした。当上半期の営業収益には-1 億 1600 万ユーロの一時項目が含まれていたのに対し、前年同期は+2 億 9900 万ユーロの一時項目が含まれていました。特別項目を除き、また連結範囲変更および為替レート変動による影響を除くと、当上半期の営業収益は前年同期比 2.7%の増収でした（事業部門合計では、前年同期比 1.9%の増収）。

<sup>1</sup> OCA/DVA による影響は年率換算せず、また、米司法当局との包括的和解に関わる費用の影響を排除するために純利益を修正して算定。

<sup>2</sup> 経過措置なしで全ての資本要求指令 4（CRD4）を考慮し算定した比率。

<sup>3</sup> 今後 Tier 1 資本として算入不能になる項目を、算入可能な項目に置き換えて算定。



当上半期の営業費用は、前年同期と比べて 1.4%増加し 128 億 9900 万ユーロとなりました。なお、特別項目を除き、また連結範囲変更および為替レート変動による影響を除くと、増加幅は 2.3%となります（事業部門合計では、前年同期比 2.8%の増加）。

営業総利益は当上半期に 65 億 8200 万ユーロとなり、前年同期比 6.5%減少しましたが、特別項目を除き、また連結範囲変更および為替レート変動による影響を除くと、3.4%増加しました（事業部門合計では、前年同期比 0.3%の増加）。

リスク費用は当上半期に 19 億 3900 万ユーロとなり、前年同期比 0.8%の減少でした。

当上半期の税引前損失は-10 億 5300 万ユーロとなりました（前年同期は税引前利益として 53 億 5800 万ユーロを計上）。特別項目を除き、また連結範囲変更および為替レート変動による影響を除くと、当上半期の税引前利益は前年同期比 6.0%の増益でした。

以上から、BNP パリバは当上半期に、株主帰属純損失-26 億 4900 万ユーロを計上しました（2013 年度上半期は 33 億 5000 万ユーロの純利益）。一時項目の影響を除くと、当上半期の株主帰属純利益は 35 億 3500 万ユーロに上り、前年同期比 12.3%の増益でした。

\*  
\* \*

## リテールバンキング事業

### 国内市場部門

国内市場部門は全般的に好業績を収めました。預金残高は当四半期に前年同期比 3.8%増加しましたが、なかでもフランス、ベルギーおよびドイツのコータル・コンソースが好調な伸びを示しました。融資残高は、借入需要が低迷し当四半期に 0.8%減少しました。国内市場部門の販売およびマーケティング活動は、以下の分野での商業的成功に反映されています。すなわち、キャッシュマネジメントでは、欧州の SEPA（Single Euro Payment Area：単一ユーロ決済圏）スタンダードへの移行を受けて商機を捉え、また、進行中のデジタルイノベーションでは、とりわけ Hello bank!、e-Wallets およびモバイル決済ソリューションの開発で成功を収めました。

当四半期の営業収益<sup>1</sup>は 39 億 700 万ユーロに上り、前年同期比 0.7%の増収でしたが、これにはプライベート・バンキング部門およびアルバルの好業績が貢献しました。営業費用<sup>1</sup>は当四半期に 24 億 4500 万ユーロとなり、前年同期比-0.6%と若干減少しました。これを受けて国内市場部門で 1.3 ポイントのジョーズ効果が生み出され、引き続き業務効率が改善しました。

当四半期の営業総利益<sup>1</sup>は 14 億 6200 万ユーロに上り、前年同期比 3.1%増加しました。

以上から、イタリアにおけるリスク費用の上昇を考慮し、またプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 を、国内市場部門からインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、当四半期の税引前利益<sup>2</sup>は 8 億 8700 万ユーロとなり、前年同期比 4.4%の減益でした。

2014 年度上半期全体で、営業収益<sup>1</sup>は 78 億 3600 万ユーロに上り、前年同期比 1.2%の増収となりました。これにはオフバランス貯蓄商品、プライベート・バンキング、およびアルバルの好業績が貢献しました。営業費用<sup>1</sup>は当上半期に 48 億 7000 万ユーロとなり、前年同期から若干減少（-0.1%）したおかげで、国内市場部門で 1.3 ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。その結果、営業収益対コスト比率<sup>1</sup>はフランス、イタリア、およびベルギーで改善し、国内市場部門全体では 62.1%へと改善しました（2013 年度上

<sup>1</sup> フランス（PEL/CEL の影響を除く）、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの 100%を含む。

<sup>2</sup> PEL/CEL の影響を除く。





半期と比べて 0.9 ポイントの低下)。営業総利益<sup>1</sup>は当上半期に 29 億 6600 万ユーロに上り、前年同期比 3.6%増加しました。以上から、イタリアにおけるリスク費用の上昇を考慮し、またプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 を、国内市場部門からインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、当上半期の税引前利益<sup>2</sup>は 17 億 6200 万ユーロとなり、前年同期比 8.0%の減益となりました。

### フランス国内リテールバンキング (FRB)

フランス国内リテールバンキング (FRB) 部門による事業活動の成果は、預金の好調な伸びに反映され、とりわけ当座預金が牽引し、預金残高は 2013 年度第 2 四半期から 4.7%の伸びを果たしました。一方、融資残高は、借入需要が引き続き低迷したため、前年同期から 1.3%減少しました。FRB の当四半期中の販売およびマーケティング活動は、「*Préférence Client 2016*」計画の導入に表れています。同計画では新たな顧客リレーションモデルを展開しますが、これには 10 項目から成るサービスコミットメント、強化された助言サービス提供能力、新たな支店フォーマットなどが含まれています。プライベート・バンキング部門は、運用資産残高が 810 億ユーロ近くに上り（前年同期比 8.4%の増加）、当四半期に好業績を収めるとともに、フランス国内市場で他社の追従を許さないナンバーワンの地位を確認しました。法人顧客セグメントでは、ファクタリング業務の好調により債権残高は 10.4%の伸びを示し、また、キャッシュマネジメント業務で FRB の市場シェアが拡大しました。

当四半期の営業収益<sup>3</sup>は 17 億 400 万ユーロとなり、前年同期比-0.5%の若干の減収となりました。純利息収入は、当座預金の伸びにより 2.5%増加しました。一方、手数料収入は、フランス銀行法の下、特定の処理に関わる手数料に上限が課されたことが特に影響し、4.7%減少しました。

業務効率が引き続き改善したおかげで、当四半期の営業費用<sup>3</sup>は前年同期比 1.0%減少し、0.5 ポイントの正のジョーズ効果を生み出しました。

営業総利益<sup>3</sup>は当四半期に 6 億 1800 万ユーロとなり、前年同期比 0.5%増加しました。

リスク費用<sup>3</sup>は前年同期から 1500 万ユーロ増加しましたが、融資残高の 29bp 相当で、依然として低水準に抑えられました。

以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、FRB の税引前利益<sup>2</sup>は当四半期に 4 億 8400 万ユーロとなり、前年同期比 2.4%の減益でした。

2014 年度上半期全体で、営業収益<sup>3</sup>は前年同期から安定推移しました。当座預金の伸びが貢献して純利息収入が 1.5%増加した一方で、特定の処理に関わる手数料の減少で手数料収入が全体として 2.1%減少したことにより相殺されました。業務効率の継続的な改善のおかげで営業費用<sup>3</sup>が 0.8%減少しました。これを受けて営業総利益<sup>3</sup>が 1.5%増加し、営業収益対コスト比率<sup>3</sup>は 63.3%へと改善しました。リスク費用<sup>3</sup>は、1 件の特定の債権の影響で、前年同期と比べて 4400 万ユーロ増加しましたが、それでも依然として低水準に留まりました。以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、FRB の税引前利益<sup>2</sup>は当上半期に 9 億 7100 万ユーロとなり、前年同期比 3.2%の減益でした。

<sup>1</sup> フランス (PEL/CEL の影響を除く)、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの 100%を含む。

<sup>2</sup> PEL/CEL の影響を除く。

<sup>3</sup> PEL/CEL の影響を除き、フランス国内プライベート・バンキングの 100%を含む。



### BNL バンカ・コメルシアーレ (BNL bc)

BNL バンカ・コメルシアーレ (BNL bc) の預金残高は、当四半期に前年同期比 7.9%減少しました。その主要因として、法人顧客セグメントの最もコスト高な預金が集中的に減少したことがあります。一方、融資残高は、個人向け貸し出しが堅調であったものの、法人顧客セグメントで引き続き借入需要が低迷したことから、前年同期比 2.3%減少しました。生命保険およびミューチュアルファンド部門では、高い資金流入がありました。BNL bc の商品開発方針は、新たな決済およびクレジットカード商品の成功に反映され、2014 年上半期中のカード発行枚数は、ネットベースで前年同期の 2 倍になりました。

当四半期の営業収益<sup>1</sup> は前年同期と比べて若干の増収 (+0.1%) を果たし、8 億 1200 万ユーロとなりました。純利息収入は、融資残高の減少によるマイナス影響を、預金の構造変化によるプラス効果が上回ったことから、1.1%増加しました。手数料収入は、オフバランス貯蓄商品が好調であったものの、融資に関わる手数料の減少で、当四半期は 1.8%減少しました。

営業費用<sup>1</sup> は、コスト削減努力が奏功し、前年同期比 0.5%減少し 4 億 3900 万ユーロとなったことから、0.6 ポイントの正のジョーズ効果を生み出しました。

営業総利益<sup>1</sup> は 3 億 7300 万ユーロとなり、前年同期比 0.8%の増加でした。

リスク費用<sup>1</sup> は、当四半期に融資残高の 185bp 相当となり、2013 年度第 2 四半期と比べて 6900 万ユーロ増加しました。イタリアでの依然として厳しい経済環境がこれに影響していましたが、それでも 2014 年度第 1 四半期からは安定推移しました。

従って、BNL bc は、引き続きビジネスモデルを経済環境に適応させる努力をしました。以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、BNL bc の税引前利益は当四半期に前年同期比 98.6%の減益となりました。

2014 年度上半期全体で、営業収益<sup>1</sup> は、前年同期比 0.1%の増収となりました。純利息収入は、前年同期比 1.2%増加しました。これは、融資残高の減少によるマイナス影響や、オフバランス貯蓄商品の好調にも関わらず手数料収入がクレジット手数料の低迷で減少しましたが、これらを打ち消すかたちで預金の構造変化によるプラス効果が発揮されたことによるものです。営業費用<sup>1</sup> は、前年同期比 0.9%減少したことにより、1.0 ポイントの正のジョーズ効果が生み出され、その結果、営業収益対コスト比率<sup>1</sup> は 53.4%へとさらに改善しました。ただし、当上半期にリスク費用<sup>1</sup> は前年同期比 23.2%増加しました。以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、BNL bc の税引前利益は当上半期に 1700 万ユーロとなり、前年同期比 88.6%の減益となりました。

### ベルギー国内リテールバンキング (BRB)

ベルギー国内リテールバンキング (BRB) は、当四半期も活発な販売およびマーケティング活動を展開しました。預金残高は 2013 年度第 2 四半期から 5.5%増加しましたが、とりわけ当座預金および普通預金の高い伸びがこれに貢献しました。融資残高は、当四半期に 1.3%増加しました。特に個人向け貸出が伸びたことに加え、中小企業 (SME) 向け融資が底堅く推移したことが寄与しました。BRB はまた、デジタルバンキング業務の開発を継続した結果、iPhone/iPad および Android 向け Easy Banking のアプリのダウンロード数が、2012 年中盤の導入以来、800,000 件近くに上る快挙を遂げました。

当四半期の営業収益<sup>2</sup> は、前年同期比 2.1%増加し、8 億 2200 万ユーロとなりました。純利息収入は融資の伸びが貢献して増加し、また、手数料収入も若干の増加を果たしました。

<sup>1</sup> イタリア国内プライベート・バンキングの 100%を含む。

<sup>2</sup> ベルギー国内プライベート・バンキングの 100%を含む。



営業費用<sup>1</sup>は当四半期に前年同期比 1.0%減少しました。システミックリスク税引き上げによる影響はあったものの、従業員や支店網を新たな環境に適応させたことが奏功しました。その結果、BRB の業務効率は Bank for the Future 計画に沿って引き続き改善し、当四半期の営業総利益<sup>1</sup>は 11.9%の大幅増となり、2億 1600万ユーロに上りました。

リスク費用<sup>1</sup>は、前年同期と比べて 2800万ユーロ減少し、融資残高の 7bp 相当で、とりわけ低い水準となりました。以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3分の1をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、BRB の税引前利益は当四半期に 1億 8600万ユーロに上り、前年同期比 31.0%の大幅増益を果たしました。これは当四半期における BRB の業績が極めて好調であったことを反映しています。

2014年度上半期全体で、営業収益<sup>1</sup>は前年同期比 2.5%<sup>2</sup>の増収となりました。これには、融資の伸びを受けて純利息収入が 2.6%<sup>2</sup>増加したことに加え、クレジット手数料の好調により手数料収入が 2.4%<sup>2</sup>増加したことが貢献しました。営業費用<sup>1</sup>は、システミックリスク税引き上げの影響にも関わらず、コスト抑制努力が奏功したことから、当上半期は 0.3%<sup>2</sup>の若干の増加に留まりました。その結果、2.2ポイントの正のジョーズ効果が生み出され、営業収益対コスト比率<sup>1</sup>は当上半期に 72.6%へと改善しました。これらを受けて、営業総利益<sup>1</sup>は前年同期比 9.0%<sup>2</sup>増加しました。リスク費用<sup>1</sup>は前年同期からほぼ横ばいで推移しました。以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3分の1をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、BRB の税引前利益は当上半期に 3億 5700万ユーロに上り、前年同期比 7.2%<sup>2</sup>の増益を果たしました。

**ルクセンブルク国内リテールバンキング：** 融資残高は、法人顧客セグメントで減少したものの、住宅ローンの高い伸びに支えられて、前年同期比 1.6%増加しました。預金残高は、キャッシュマネジメント業務の開発に伴い法人顧客セグメントで高い資金流入があったことから、当四半期に 3.4%増加しました。

**個人投資家部門：** 運用資産残高は、当四半期に前年同期比 13.6%増加しましたが、これには運用パフォーマンス効果に加え、活発な販売およびマーケティング活動が貢献しました。一方で、仲介業務は前年同期比 9.1%の減少でした。預金残高は、新規顧客の順調な増加とドイツにおける Hello bank! の展開の好調から、当四半期に前年同期比+16.4%の大幅増となりました。

**アルバル：** 当四半期のアルバルの業績は、ファイナンスリース・フリートの増加（前年同期比+2.1%<sup>3</sup>）および発注件数の増加を受けて、好調に推移しました。連結ベースのリース資産残高は、前年同期比 3.1%<sup>3</sup>増加しました。営業収益は、引き続き中古車価格の上昇に支えられて、前年同期と比べて増収となりました。確かなコスト管理のおかげで、営業収益対コスト比率は前年同期から大幅に改善しました。

**リーシング・ソリューションズ：** リース資産残高は、ノンコア資産の継続的な削減にも関わらず、当四半期に若干増加しました（前年同期比+0.3%<sup>2</sup>）。営業収益は、リース資産の増加に加え、取引の収益性を重視する選択的な方針の結果、当四半期に増収となりました。コスト管理努力が奏功し、営業収益対コスト比率は若干の改善を果たしました。

全体では、関連会社からの収益貢献が低迷したこともあり、これら 4つの業務部門による国内市場部門の税引前利益への貢献は、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3分の1をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、当四半期に前年同期比 -0.4%<sup>3</sup>と僅かに減少し、2億 1600万ユーロとなりました。

<sup>1</sup>ベルギー国内プライベート・バンキングの 100%を含む。

<sup>2</sup>連結範囲変更による影響を除く。

<sup>3</sup>連結範囲変更および為替レート変動による影響を除く。



2014 年度上半期全体で、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、これら 4 つの業務部門による国内市場部門の税引前利益への貢献は、合計で 4 億 1700 万ユーロとなり、2013 年度上半期と比べて 2.2%<sup>1</sup>減少しました。

\*  
\* \*

### 欧州・地中海沿岸諸国

当四半期に預金残高は、2013 年度第 2 四半期と比べて 11.1%<sup>1</sup>増加しました。しかも、ほとんどの国で預金残高が増加し、とりわけトルコの伸びが顕著でした。融資残高は 11.3%<sup>1</sup>増加し、特にトルコがこれを牽引しました。積極的な販売およびマーケティング活動の結果、キャッシュマネジメント業務およびプライベート・バンキング業務の開発が進みました。なかでもトルコで運用資産残高が大幅増となり、2013 年 6 月末現在の水準から 34%<sup>1</sup>増加し、35 億ユーロとなりました。

当四半期の営業収益<sup>2</sup>は 4 億 8900 万ユーロに上り、前年同期比 2.7%<sup>1</sup>の増収となりました。なお、いずれも 2013 年第 3 四半期の序盤から、トルコで当座借越しの課金に関する新規制が導入され、またアルジェリアでは為替手数料に関する規制が実施されましたが、これらの影響（当四半期の営業収益の逸失は約 3700 万ユーロ）を除くと、当四半期の営業収益は、全ての国で増収となり、前年同期比 9.7%<sup>1</sup>増加しました。

営業費用<sup>2</sup>は当四半期に前年同期比 6.7%<sup>1</sup>増加し、3 億 4800 万ユーロとなりました。これには特に 2013 年度に実施されたトルコの支店網の拡充が影響していました（2013 年度第 2 四半期以降、15 支店を開設）。

リスク費用<sup>2</sup>は、前年同期から 1200 万ユーロ減少し、当四半期は 5000 万ユーロで融資残高の 72bp 相当となりました。

以上から、トルコのプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国の税引前利益は当四半期に 1 億 1900 万ユーロとなり、前年同期比 4.3%<sup>1</sup>の減益でした。

2014 年度上半期全体で、営業収益<sup>2</sup>は 0.2%<sup>1</sup>の微増でした。なお、2013 年第 3 四半期序盤から実施されたアルジェリアおよびトルコでの規制変更の影響を除くと、増収幅は 7.3%<sup>1</sup>となります。営業費用<sup>2</sup>は、トルコで 2013 年度に支店網を拡充したことが特に影響し、当上半期に 6.0%<sup>1</sup>増加しました。営業収益対コスト比率<sup>2</sup>は当上半期に 72.7%となり、前年同期と比べて 4 ポイント<sup>1</sup>上昇しました。当上半期のリスク費用は、東欧で発生した非常事態を受けて設定したポートフォリオ引当金の影響<sup>3</sup>を含むため、前年同期比 27.8%<sup>1</sup>増加しました。以上から、当上半期の税引前利益は 1 億 5600 万ユーロとなり、前年同期比 27.8%<sup>1</sup>の減益でした。

### バンクウエスト

バンクウエストの業績には、当四半期中の積極的な事業活動が反映されています。預金残高は、当座預金および普通預金の順調な伸びが牽引し、前年同期比 6.4%<sup>1</sup>増加しました。融資残高は、法人向け融資および消費者ローンの伸びが当四半期も持続し、前年同期比 6.0%<sup>1</sup>増加しました。バンクウエストはまた、プライベート・バンキング業務の開発を押し進めた結果、運用資産残高は 2014 年 6 月末現在で 79 億米ドルに上りました（2013 年 6 月末の水準から 32%の増加）。

<sup>1</sup> 連結範囲変更および為替レート変動による影響を除く。

<sup>2</sup> トルコのプライベート・バンキングの 100%を含む。

<sup>3</sup> 引当金取崩し後のネットベース。





営業収益<sup>1</sup>は当四半期に5億3700万ユーロに上り、2013年度第2四半期と比べて1.2%<sup>2</sup>の増収でした。これには取引量が膨らんだ一方で、金利水準が不利に働いたことが影響していました。

当四半期の営業費用<sup>1</sup>は3億4200万ユーロとなり、前年同期比3.7%<sup>2</sup>増加しました。その要因として、規制コストが上昇したこと（特に包括的資本分析およびレビュー（CCAR : Comprehensive Capital Analysis and Review）による影響）に加え、業務体制の強化（プライベート・バンキング部門）への投資が嵩んだことがあります。一方、支店網の合理化（過去1年間で34支店を閉鎖）によるコスト削減効果がこれを一部相殺しました。

リスク費用<sup>1</sup>は当四半期も低水準に留まり（融資残高の15bp相当）、また、2013年度第2四半期からほぼ横ばいでした（400万ユーロの増加）。

以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をインベストメント・ソリューションズ事業へ配分した後、バンクウェストの税引前利益は当四半期に1億7800万ユーロとなり、前年同期比6.0%<sup>2</sup>の減益でした。

2014年度上半期全体で、営業収益<sup>1</sup>は、不利な金利環境および貸付債権売却益の減少から、前年同期比1.7%<sup>2</sup>の減収となりました。営業費用<sup>1</sup>は当上半期に4.0%<sup>2</sup>増加しました。その要因として、2013年後半から規制コストが上昇したことに加え、業務体制の強化に関わる投資が嵩んだことがあります。その一方で支店網の合理化がこれを一部相殺しました。その結果、営業収益対コスト比率<sup>1</sup>は当上半期に3.6ポイント<sup>2</sup>上昇し、65.7%となりました。リスク費用が大幅に減少したおかげで（前年同期比-25.1%<sup>2</sup>）、税引前利益は3億3400万ユーロとなり、前年同期比10.2%<sup>2</sup>の減益でした。

### パーソナル・ファイナンス

パーソナル・ファイナンス部門の当四半期における販売およびマーケティング活動の成果は、融資残高が前年同期比3.6%<sup>2</sup>増加し455億ユーロに上ったことに表れています。当部門の事業開発はまた、LaSerに対する出資比率を2014年7月25日現在で100%に高めたことにも反映されています。かかる取引は、ギャラリー・ファライエットが保有していた50%持分に対するプットオプションを行使した際に実行されました。これによりパーソナル・ファイナンスは、フランス国内で特化型事業としてNo. 1の地位を獲得しました。当業務部門はまた、ドイツのコメルツバンクと2020年までの戦略的提携関係を更新したことで、ユーロ圏最大の消費者金融市場における継続的な発展の支えとなるでしょう。

当四半期の営業収益は前年同期比0.6%<sup>2</sup>増加し、9億2600万ユーロとなりました（一時項目を排除すると、前年同期比1.4%<sup>2</sup>の増収）。当四半期の事業の成長は、事業開発計画に沿ったものであり、また融資残高は全ての地域において増加し、とりわけドイツ、ベルギーおよび中欧の伸びが顕著でした。

当四半期の営業費用は前年同期比1.5%<sup>2</sup>増加しましたが、これは事業の拡大に相応するものでした。

リスク費用は当四半期に前年同期比12.7%<sup>2</sup>減少し、融資残高の217bp相当となりました。

以上から、当四半期にパーソナル・ファイナンスの税引前利益は前年同期比18.2%<sup>2</sup>の大幅増益となり、2億6300万ユーロに上りました。

<sup>1</sup> 米国プライベート・バンキングの100%を含む。

<sup>2</sup> 連結範囲変更および為替レート変動による影響を除く。



2014 年度上半期全体で、営業収益は前年同期比 1.1%<sup>1</sup> 増加しました。ドイツ、ベルギーおよび中欧における高い伸びが営業収益を牽引し、また、フランスでの若干の増加も貢献しました。営業費用は、事業の成長に対応するかたちで前年同期比 1.0%<sup>1</sup> 増加し、営業収益対コスト比率は当上半期に 47.1% となりました。リスク費用が 2013 年度上半期と比べて 5.7%<sup>1</sup> 減少したことを受けて、税引前利益は当上半期に 4 億 9400 万ユーロに上り、前年同期比 11.2%<sup>1</sup> の増益を果たしました。

\*  
\* \*

## インベストメント・ソリューションズ事業

インベストメント・ソリューションズ事業は、当四半期に保険部門および証券管理部門が牽引し、全般的に好業績を収めました。

運用資産残高<sup>2</sup> は、2014 年 6 月末現在で 8830 億ユーロに上り、2013 年 6 月末の水準から 5.2% 増加しました。また運用資産残高は、2013 年 12 月末との比較では 3.5% (290 億ユーロ) 増加しましたが、これにはとりわけ株式相場の動向と金利環境が有利に働いたことで、267 億ユーロ相当の運用パフォーマンス効果が貢献しました。2014 年度上半期における純資金流入は、全体で 16 億ユーロに上りました。これを部門別にみると以下ようになります。資産運用部門では若干の純資金流出でした（ただし、債券ファンドは純資金流入）。富裕層向け資産運用部門では、特にアジア、フランスおよびイタリアが健闘したものの、資金流入は限定的でした。保険部門では、とりわけイタリア、フランスおよびアジアが牽引し、高水準の資金流入がありました。

2014 年 6 月末現在、インベストメント・ソリューションズ事業の運用資産残高<sup>2</sup> の内訳は、以下のとおりでした：資産運用部門は 3800 億ユーロ；富裕層向け資産運用部門は 2950 億ユーロ；保険部門は 1900 億ユーロ；不動産管理部門は 190 億ユーロ。

さらに、証券管理部門は当四半期も事業開発を押し進めました。スペインではバンコ・ポピュラーの預託銀行業務（約 130 億ユーロの預託資産）を買収しました。また、数多くの商業的成功を収めました。なかでもジェネラリグループの欧州における資産（約 1800 億ユーロ）について、カストディおよび管理契約を獲得したことは特筆に値します。

インベストメント・ソリューションズ事業の営業収益は、当四半期に 16 億 6000 万ユーロに上り、前年同期比 5.0%<sup>1</sup> の増収となりました。これを部門別にみると以下ようになります。保険部門の営業収益は、フランスおよびイタリアでの順調な伸びに加え、海外の保障保険の高い伸びにも支えられて、当四半期に 8.1%<sup>1</sup> の増収となりました。富裕層向けおよび資産運用部門の営業収益は、不動産管理部門および資産運用部門の伸びが寄与し、当四半期に 2.3%<sup>1</sup> の増収となりました。さらに、証券管理部門の営業収益は、証券取引の増加に加え、カストディ資産の残高増に伴い、当四半期に 5.9%<sup>1</sup> の増収を果たしました。

インベストメント・ソリューションズ事業の営業費用は、当四半期に 11 億 500 万ユーロとなり、前年同期比 3.7%<sup>1</sup> 増加しました。これを部門別にみると以下ようになります。保険部門では、海外事業の継続的な成長に伴い、営業費用は 6.8%<sup>1</sup> 増加しました。富裕層向けおよび資産運用部門では、事業開発投資（富裕層向け業務、および資産運用業務）の影響で 3.0%<sup>1</sup> 増加しました。証券管理部門では、事業の成長に伴い営業費用が 2.4%<sup>1</sup> 増加しました。

インベストメント・ソリューションズ事業の営業総利益は、当四半期に 5 億 5500 万ユーロに上り、前年同期比 7.6%<sup>1</sup> 増加しました。

<sup>1</sup> 連結範囲変更および為替レート変動による影響を除く。

<sup>2</sup> 外部顧客のためのアドバイザー契約資産および分配金を含む。



以上より、国内市場部門、トルコおよび米国から、プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1を配分された後、インベストメント・ソリューションズ事業の税引前利益は、前年同期比9.2%<sup>1</sup>増加し6億300万ユーロに上りました。

2014年度上半期全体で、インベストメント・ソリューションズ事業の営業収益は、前年同期比3.9%<sup>1</sup>増加しました。その牽引役として、証券管理部門の営業収益が8.6%<sup>1</sup>増加し、また、保険部門の営業収益が5.2%<sup>1</sup>増加したことが挙げられます。富裕層向けおよび資産運用部門の営業収益は、当上半期に+0.5%<sup>1</sup>で、若干の増加でした。営業費用は、以下の要因から前年同期比3.0%<sup>1</sup>増加しました。事業の拡大に伴い営業費用は、保険部門で4.0%<sup>1</sup>増加し、また証券管理部門で2.9%<sup>1</sup>増加しました。事業開発投資（アジア地域、資産運用部門、および不動産管理部門）に起因して、富裕層向けおよび資産運用部門で営業費用が2.6%<sup>1</sup>増加しました。これらを受けて、営業収益対コスト比率は、当上半期に0.6ポイント<sup>1</sup>低下し67.3%となりました。以上より、国内市場部門、トルコおよび米国から、プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1を配分された後、インベストメント・ソリューションズ事業の税引前利益は、当上半期に11億4800万ユーロに上り、前年同期比6.2%<sup>1</sup>の増益を果たしました。

\*  
\* \*

## コーポレートバンキング・投資銀行（CIB）事業

コーポレートバンキング・投資銀行（CIB）事業は、当四半期に全般的に好業績を収めました。営業収益は前年同期比+14.6%<sup>3</sup>の大幅増となり、23億9800万ユーロ<sup>2</sup>に上りました。デリバティブ評価のために導入した調達評価調整（FVA : Funding Valuation Adjustment）は、フィクスト・インカム業務の営業収益に対して、-1億6600万ユーロの一過性の影響を及ぼしています。

アドバイザリーおよびキャピタル・マーケット業務の営業収益は、当四半期に15億3900万ユーロ<sup>2</sup>に上り、前年同期比22.4%<sup>3</sup>の大幅増となりました。これには、ECB（欧州中央銀行）の政策発表を受けて欧州市場が強気優勢の地合いに転じたことが影響していました。バリュエーション・アット・リスク（VaR）は、当四半期も極めて低い水準に留まりました（3600万ユーロ）。

フィクスト・インカム業務の営業収益は、当四半期に9億8600万ユーロ<sup>2</sup>に上り、前年同期から大幅増となりました（2013年度第2四半期の比較ベースが低かったこともあり、22.1%<sup>3</sup>の増加）。当四半期の増収要因として、金利およびクレジット業務が好調であったことに加え、為替業務が伸びたこと（特にアジア地域）が挙げられます。債券発行業務は底堅く推移しました。フィクスト・インカム部門は、ユーロ建て社債で第1位を獲得するとともに、全通貨建て全国際社債で第8位につけました。

株式およびアドバイザリー業務の営業収益は、当四半期に5億5300万ユーロに上り、前年同期比22.9%<sup>1</sup>の大幅増となりました。増収要因として、株式デリバティブが、フロー業務および仕組商品の両方で高い伸びを維持したことがありました。ロイヤル・バンク・オブ・スコットランドからデリバティブ・ポートフォリオの最初の移管がありましたが、これによる影響は现阶段では軽微です。企業の合併・買収（M&A）業務および株式発行業務は成長を遂げています。当業務部門は、2014年上半期に、EMEA地域<sup>4</sup>におけるエクイティリンク債の発行業務で第1位を獲得しました。

コーポレートバンキング業務の営業収益は、前年同期比2.9%<sup>1</sup>増加し、8億5900万ユーロに上りました。アジアパシフィック地域での伸びがこれを牽引しました（トレードファイナンス業務が成長し、また手数料収入も高水準で推移）。米州からの営業収益も増加を示した一方で、EMEA地域は、景気の低迷とエネルギーおよびコモディティ分野の減速を反映し、収益は軟調でした。融資残高は、アジアおよび米州で増加したものの欧州では減少した結果、当四半期に1070億ユーロとなり、2014年度第1四半期から安定推移しました。国際キャッシュマネジメント業務で新たに複数の大型マンドートを獲得したことも貢献し、預金残高は

<sup>1</sup>連結範囲変更および為替レート変動による影響を除く。

<sup>2</sup>調達評価調整(FVA)導入による影響を除く。

<sup>3</sup>連結範囲変更および為替レート変動による影響を除き、また、FVA導入による影響を除く。

<sup>4</sup>欧州、中東、アフリカ地域。



当四半期に 730 億ユーロに上り、前年同期と比べて 16%の大幅増となりました。手数料収入は前年同期比 5.0%増加しました。当業務部門は、EMEA 地域におけるシンジケートローンで No. 1 ブックランナーの地位を確認するとともに、メディア・テレコム、金属・鉱業、およびユーティリティ・エネルギー分野において主要な地位を占めました。

CIB の営業費用は、当四半期に 15 億 5000 万ユーロとなり、前年同期比 11.9%<sup>1</sup> 増加しました。その要因として、アドバイザーおよびキャピタル・マーケット業務の成長、事業開発投資の継続、および 2014-2015 年の期間に及ぶ適応費用の暫定計上（当四半期は 1000 万ユーロで、CCAR の導入を始めとする新規制に関わるコストが主に影響）が挙げられます。

CIB のリスク費用は当四半期に 4000 万ユーロとなり、前年同期比 80.3%<sup>1</sup> 減少しました。これには、コーポレートバンキング業務のリスク費用が当四半期に低水準に留まり（融資残高の 20bp 相当）、アドバイザーおよびキャピタル・マーケット業務では貸倒引当金戻入益が計上されたことが影響していました。

以上から、CIB の税引前利益は当四半期に 6 億 6100 万ユーロに上り、前年同期比 28.3%<sup>1</sup> の大幅増益を果たしました。

2014 年度上半期全体で、CIB の営業収益は前年同期比 4.8%<sup>2</sup> 増加し、47 億 3500 万ユーロ<sup>3</sup> に上りました。アドバイザーおよびキャピタル・マーケット業務の営業収益は、当上半期に 6.8%<sup>2</sup> 増加しました。これには株式およびアドバイザー業務で全ての業務セグメントに渡り高い伸び（+35.2%<sup>1</sup>）を果たしたことが貢献しており、フィクスト・インカム業務の穏やかな減収（-4.7%<sup>2</sup>）による影響を打ち消しました。コーポレートバンキング業務の営業収益は微増でした（+1.0%<sup>1</sup>）。営業費用は当上半期に 7.1%<sup>1</sup> 増加しました。これには、アドバイザーおよびキャピタル・マーケット業務の成長に伴うコストの増加、事業開発投資の継続による費用、さらには 2014-2015 年の期間に及ぶ適応費用の暫定計上が影響していました。なお、かかる暫定的な適応費用には、新規制の実施や、新設のバックオフィスおよび IT システムの始動に関わる追加費用などが含まれ、2014 年度上半期には 2500 万ユーロが計上されました。リスク費用は、当上半期に 1 億 3600 万ユーロとなり、前年同期の 2 億 8600 万ユーロから激減しました。以上から、当上半期の税引前利益は 12 億 8400 万ユーロとなり、前年同期比 1.6%<sup>1</sup> の減益でした。

\*  
\* \*

## コーポレート・センター

コーポレート・センターの営業収益は、当四半期に-4900 万ユーロとなりましたが、これに対し前年同期の営業収益は+2 億 900 万ユーロでした。当四半期の営業収益には、特に以下の要因が含まれています：自己負債の再評価に関わる修正額（OCA）およびデリバティブに関わる債務価値調整額（DVA）が合計で-1 億 8700 万ユーロのマイナス要因（前年同期は-6800 万ユーロのマイナス要因）；BNP パリバ・プリンシパル・インベストメンツによる高い貢献に加え、株式投資ポートフォリオからの収入がありました。中央銀行預け金は、引き続き営業収益に対する負担要因となっています。なお、2013 年度第 2 四半期におけるコーポレート・センターの営業収益には、+2 億 1800 万ユーロに上るロイヤル・パーク・インベストメンツの資産売却益が含まれていました。

営業費用は、当四半期に 3 億 5100 万ユーロとなり、これに対し前年同期は 2 億 1100 万ユーロでした。当四半期の営業費用の主な項目として、Simple & Efficient 計画に関わる変革費用 1 億 9800 万ユーロがありました（前年同期は 7400 万ユーロ）。

当四半期のリスク費用は、相殺後で+800 万ユーロの貸倒引当金戻入益となりました（前年同期のリスク費用は僅少）。

<sup>1</sup> 連結範囲変更および為替レート変動による影響を除く。

<sup>2</sup> 連結範囲変更および為替レート変動による影響を除き、また、FVA 導入による影響を除く。

<sup>3</sup> FVA 導入による影響（-1 億 6600 万ユーロ）を除く。





特定のドル資金決済に関わる協議の末、米司法当局との包括的和解を受けて、グループは当四半期に総額 59 億 5000 万ユーロの一時費用を計上しました（内訳は、罰金に充当するために 57 億 5000 万ユーロ、および、是正計画に関わる将来の費用に備えて 2 億ユーロ）。

営業外損益は、当四半期に 3500 万ユーロとなり、これに対し前年同期は-1300 万ユーロでした。なお、前年同期の営業外損益には、BNP パリバ・エジプトの売却に伴い計上された為替差損-3000 万ユーロが含まれていました。

以上から、コーポレート・センターの税引前損失は当四半期に-63 億 700 万ユーロとなり、これに対し前年同期は -1300 万ユーロでした。

2014 年度上半期全体で、コーポレート・センターの営業収益は+2 億 6600 万ユーロとなり、これに対し前年同期は+3 億 5400 万ユーロでした。当上半期の営業収益には以下の要因が含まれています：自己負債の再評価に関わる修正額（OCA）およびデリバティブに関わる債務価値調整額（DVA）が合計で-2 億 5100 万ユーロのマイナス要因（前年同期は+8100 万ユーロのプラス要因）；投資有価証券の売却による特別利益が 3 億 100 万ユーロ；BNP パリバ・プリンシパル・インベストメンツによる高い貢献に加え、株式投資ポートフォリオからの収入；および、中央銀行預け金に関わる負担です。なお、2013 年度上半期において、コーポレート・センターの営業収益には、+2 億 1800 万ユーロに上るロイヤル・パーク・インベストメンツの資産売却益も含まれていました。

コーポレート・センターの営業費用は当上半期に 5 億 7700 万ユーロとなり、これに対し前年同期は 5 億 2000 万ユーロでした。当上半期の営業費用には Simple & Efficient 計画に関わる変革費用 3 億 4000 万ユーロが含まれていました（前年同期は 2 億 2900 万ユーロ）。

リスク費用は当上半期に-1200 万ユーロとなりました（前年同期は-700 万ユーロ）。

特定のドル資金決済に関わる協議の末、米司法当局との包括的和解を受けて、グループは 2014 年度第 2 四半期に 59 億 5000 万ユーロの一時費用を計上しました（内訳は、罰金に充当するために 57 億 5000 万ユーロ、および、是正計画に関わる将来の費用に備えて 2 億ユーロ）。

営業外損益は当上半期に 4700 万ユーロの利益となり、これに対し前年同期は-7900 万ユーロでした。なお、前年同期の営業外損益には、BNP パリバ・エジプトの売却に伴い計上された為替差損-3000 万ユーロに加え、関連会社に関わる減損処理による一時的な影響が含まれていました。

以上から、コーポレート・センターの税引前損失は、当上半期に-62 億 2600 万ユーロとなり、これに対し前年同期は-2 億 5200 万ユーロの損失でした。

\*  
\* \*

## 財務構造

BNP パリバグループは、盤石なバランスシートを有しています。

バーゼル 3 基準全面適用のエクイティ Tier 1 比率<sup>1</sup>は、2014 年 3 月末の水準から 60 bp 低下し 2014 年 6 月末現在で 10.0%となりました。その主な要因は、米司法当局との包括的和解に関わる費用（-100bp）；当

<sup>1</sup> 経過措置なしで全ての資本要求指令 4（CRD4）規則を考慮し算定した比率。



四半期の留保利益<sup>1</sup> (+30bp) (1株当たり 1.50 ユーロの年間配当金を考慮後) ; 再評価準備金の上昇 (+10bp) が挙げられます。

バーゼル 3 基準全面適用のレバレッジレシオ<sup>2</sup>は、Tier 1 資本全体<sup>3</sup>に基づき算定すると、2014年6月末現在で 3.5%を達成していました。

即時利用可能な余剰資金は、2014年6月末現在で 2440 億ユーロに上りました (対して、2013年12月末の水準は 2470 億ユーロ)。これは短期資金調達との関係で、1年以上の余裕資金があることを意味します。

さらに、グループは 2014 年度の中長期資金調達計画を既に完了しています。

\*  
\* \*

以上の決算内容について、ジャン＝ローラン・ボナフェ最高経営責任者は、次のように述べています。

「BNP パリバグループの当四半期の業績には、米司法当局との包括的和解に関わる一時費用が極めて重大な影響を及ぼしています。当グループはこれに関わる過去の出来事から重要な教訓を学んだ上で、内部統制の大幅な強化を実施しているところです。

かかる一時費用を除くと、BNP パリバグループは当四半期に好業績を収め、株主帰属純利益は 19 億ユーロに上りました。

当四半期の好業績は、事業部門の営業収益が順調に伸びたことに加え、営業費用およびリスク費用の継続的な抑制努力が奏功したことで達成されました。何よりも、BNP パリバの全従業員による献身的努力とお客様の信頼によって、このような好業績が可能となりました。

グループのバランスシートは、高い自己資本比率と潤沢な余剰資金に裏打ちされ、盤石な状態にあります。BNP パリバは、世界各国の顧客のニーズに応えながら、実体経済への資金供給で積極的な役割を果たすと同時に、未来の銀行としての体制を整えています。」

<sup>1</sup> 米司法当局との包括的和解に関わる費用を除く。

<sup>2</sup> 経過措置なしで全ての資本要求指令 4 (CRD4) 規則を考慮し算定した比率

<sup>3</sup> 今後 Tier 1 資本として算入不能になる項目を、算入可能な項目に置き換えて算定した Tier 1 資本。



## 連結損益計算書

(単位: 百万ユーロ)	2Q14	2Q13	2Q14 / 2Q13	1Q14	2Q14/ 1Q14	1H14	1H13	1H14 / 1H13
営業収益	9,568	9,789	-2.3%	9,913	-3.5%	19,481	19,761	-1.4%
営業費用および減価償却費	-6,517	-6,251	+4.3%	-6,382	+2.1%	-12,899	-12,721	+1.4%
営業総利益	3,051	3,538	-13.8%	3,531	-13.6%	6,582	7,040	-6.5%
リスク費用	-855	-1,044	-18.1%	-1,084	-21.1%	-1,939	-1,955	-0.8%
米司法当局との包括的和解に関わる費用	-5,950	0	n.s.	0	n.s.	-5,950	0	n.s.
営業利益	-3,754	2,494	n.s.	2,447	n.s.	-1,307	5,085	n.s.
関連会社損益	138	107	+29.0%	107	+29.0%	245	142	+72.5%
その他営業外項目	16	112	-85.7%	-7	n.s.	9	131	-93.1%
営業外損益	154	219	-29.7%	100	+54.0%	254	273	-7.0%
税引前利益	-3,600	2,713	n.s.	2,547	n.s.	-1,053	5,358	n.s.
法人税	-621	-757	-18.0%	-803	-22.7%	-1,424	-1,585	-10.2%
少数株主帰属純利益	-96	-191	-49.7%	-76	+26.3%	-172	-423	-59.3%
株主帰属純利益	-4,317	1,765	n.s.	1,668	n.s.	-2,649	3,350	n.s.
営業収益対コスト比率	68.1%	63.9%	+4.2 pt	64.4%	+3.7 pt	66.2%	64.4%	+1.8 pt

2014 年度決算報告との比較可能性を確保するために、TEB (トルコ・エコノミ・バンク) グループに対して 2013 年度を通して全部連結を適用していたとみなす、2013 年度の見積財務諸表が作成されています。本資料には、修正再表示された 2013 年度四半期決算報告が含まれています。TEB について、持分法ではなく全部連結を適用することによる相違は、下記の四半期損益計算書で開示されています。

## TEB について持分法から全部連結への変更によるグループの 2013 年度第 2 四半期および 2013 年度上半期業績への影響

(単位: 百万ユーロ)	2Q13 修正後 (*) TEB に 持分法を適用	TEB について 持分法から 全部連結への変更 による影響	2Q13 修正後 (*) TEB に 全部連結を適用	1H13 修正後 (*) TEB に 持分法を適用	TEB について 持分法から 全部連結への変更 による影響	1H13 修正後 (*) TEB に 全部連結を適用
営業収益	9,474	315	9,789	19,133	628	19,761
営業費用および減価償却費	-6,080	-171	-6,251	-12,387	-334	-12,721
営業総利益	3,394	144	3,538	6,746	294	7,040
リスク費用	-1,014	-30	-1,044	-1,871	-84	-1,955
営業利益	2,380	114	2,494	4,875	210	5,085
関連会社損益	172	-65	107	261	-119	142
その他営業外項目	112	0	112	131	0	131
営業外損益	284	-65	219	392	-119	273
税引前利益	2,664	49	2,713	5,267	91	5,358
法人税	-736	-21	-757	-1,545	-40	-1,585
少数株主帰属純利益	-163	-28	-191	-372	-51	-423
株主帰属純利益	1,765	0	1,765	3,350	0	3,350

(\*) IFRS 第 10 号、IFRS 第 11 号、および改訂 IAS 第 32 号の会計基準の適用により修正再表示済み。

BNP パリバの 2014 年度第 2 四半期に関わる財務情報の開示は、本プレスリリース、およびこれに添付したプレゼンテーション資料に含まれています。

法令上要求される開示情報は全て、登録書類を含めて、<http://invest.bnpparibas.com> の「Results (業績)」セクションからオンラインで入手可能であり、フランスの通貨金融法典 L.451-1-2 条およびフランス金融市場庁 (Autorité des Marchés Financiers) の一般規則第 222-1 条以降の規定に従い、BNP パリバが公表しています。



2014 年度第 2 四半期 - コア事業部門別業績

(単位: 百万ユーロ)		リテール	インベスト	コーポレート	事業部門	その他業務	グループ合計
		バンキング	メント・ソリュ	バンキング・			
		事業	ーションズ事業	投資銀行	合計		
営業収益		5,725	1,660	2,232	9,617	-49	9,568
	対前年同期比	-2.5%	+4.2%	+5.6%	+0.4%	n.s.	-2.3%
	対前四半期比	+0.8%	+5.1%	-4.5%	+0.2%	n.s.	-3.5%
営業費用および減価償却費		-3,511	-1,105	-1,550	-6,166	-351	-6,517
	対前年同期比	-1.6%	+3.5%	+10.3%	+2.1%	+66.4%	+4.3%
	対前四半期比	+1.1%	+2.8%	-3.6%	+0.2%	+55.3%	+2.1%
営業総利益		2,214	555	682	3,451	-400	3,051
	対前年同期比	-4.0%	+5.7%	-3.8%	-2.5%	n.s.	-13.8%
	対前四半期比	+0.2%	+10.1%	-6.4%	+0.3%	n.s.	-13.6%
リスク費用		-820	-3	-40	-863	8	-855
	対前年同期比	-0.7%	-78.6%	-80.6%	-17.5%	n.s.	-18.1%
	対前四半期比	-14.8%	-50.0%	-58.3%	-18.9%	n.s.	-21.1%
米司法当局との包括的和解に関わる費用		0	0	0	0	-5,950	-5,950
	対前年同期比	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
	対前四半期比	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
営業利益		1,394	552	642	2,588	-6,342	-3,754
	対前年同期比	-5.8%	+8.0%	+27.6%	+3.8%	n.s.	n.s.
	対前四半期比	+11.8%	+10.8%	+1.4%	+8.8%	n.s.	n.s.
関連会社損益		40	50	25	115	23	138
その他営業外項目		9	1	-6	4	12	16
税引前利益		1,443	603	661	2,707	-6,307	-3,600
	対前年同期比	-13.0%	+7.1%	+31.2%	-0.7%	n.s.	n.s.
	対前四半期比	+11.2%	+10.6%	+6.1%	+9.8%	n.s.	n.s.

(単位: 百万ユーロ)		リテール	インベスト	コーポレート	事業部門	その他業務	グループ合計
		バンキング	メント・ソリュ	バンキング・			
		事業	ーションズ事業	投資銀行	合計		
営業収益		5,725	1,660	2,232	9,617	-49	9,568
	前年同期	5,873	1,593	2,114	9,580	209	9,789
	前四半期	5,682	1,579	2,337	9,598	315	9,913
営業費用および減価償却費		-3,511	-1,105	-1,550	-6,166	-351	-6,517
	前年同期	-3,567	-1,068	-1,405	-6,040	-211	-6,251
	前四半期	-3,473	-1,075	-1,608	-6,156	-226	-6,382
営業総利益		2,214	555	682	3,451	-400	3,051
	前年同期	2,306	525	709	3,540	-2	3,538
	前四半期	2,209	504	729	3,442	89	3,531
リスク費用		-820	-3	-40	-863	8	-855
	前年同期	-826	-14	-206	-1,046	2	-1,044
	前四半期	-962	-6	-96	-1,064	-20	-1,084
米司法当局との包括的和解に関わる費用		0	0	0	0	-5,950	-5,950
	前年同期	0	0	0	0	0	0
	前四半期	0	0	0	0	0	0
営業利益		1,394	552	642	2,588	-6,342	-3,754
	前年同期	1,480	511	503	2,494	0	2,494
	前四半期	1,247	498	633	2,378	69	2,447
関連会社損益		40	50	25	115	23	138
	前年同期	67	44	0	111	-4	107
	前四半期	48	49	-4	93	14	107
その他営業外項目		9	1	-6	4	12	16
	前年同期	112	8	1	121	-9	112
	前四半期	3	-2	-6	-5	-2	-7
税引前利益		1,443	603	661	2,707	-6,307	-3,600
	前年同期	1,659	563	504	2,726	-13	2,713
	前四半期	1,298	545	623	2,466	81	2,547
法人税							-621
少数株主帰属純利益							-96
株主帰属純利益							-4,317





## 2014 年度上半期 - コア事業部門別業績

(単位: 百万ユーロ)		リテール	インベストメ	コーポレート	事業部門	その他業務	グループ合計
		バンキング	ント・ソリュー	バンキング・			
		事業	ションズ事業	投資銀行	合計		
		事業	事業	事業			
<b>営業収益</b>		<b>11,407</b>	<b>3,239</b>	<b>4,569</b>	<b>19,215</b>	<b>266</b>	<b>19,481</b>
	対前年同期比	-2.3%	+2.8%	-0.3%	-1.0%	-24.9%	-1.4%
営業費用および減価償却費		-6,984	-2,180	-3,158	-12,322	-577	-12,899
	対前年同期比	-1.3%	+2.5%	+5.4%	+1.0%	+11.0%	+1.4%
<b>営業総利益</b>		<b>4,423</b>	<b>1,059</b>	<b>1,411</b>	<b>6,893</b>	<b>-311</b>	<b>6,582</b>
	対前年同期比	-3.7%	+3.3%	-11.1%	-4.3%	+87.3%	-6.5%
リスク費用		-1,782	-9	-136	-1,927	-12	-1,939
	対前年同期比	+8.6%	-57.1%	-52.4%	-1.1%	+71.4%	-0.8%
米司法当局との包括的和解に関わる費用		0	0	0	0	-5,950	-5,950
	対前年同期比	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
<b>営業利益</b>		<b>2,641</b>	<b>1,050</b>	<b>1,275</b>	<b>4,966</b>	<b>-6,273</b>	<b>-1,307</b>
	対前年同期比	-10.5%	+4.6%	-2.1%	-5.6%	n.s.	n.s.
関連会社損益		88	99	21	208	37	245
その他営業外項目		12	-1	-12	-1	10	9
<b>税引前利益</b>		<b>2,741</b>	<b>1,148</b>	<b>1,284</b>	<b>5,173</b>	<b>-6,226</b>	<b>-1,053</b>
	対前年同期比	-14.1%	+4.4%	-2.7%	-7.8%	n.s.	n.s.
法人税							-1,424
少数株主帰属純利益							-172
<b>株主帰属純利益</b>							<b>-2,649</b>



## 連結四半期業績の推移

(単位：百万ユーロ)	2Q14	1Q14	4Q13	3Q13	2Q13	1Q13
<b>グループ</b>						
営業収益	9,568	9,913	9,469	9,179	9,789	9,972
営業費用および減価償却費	-6,517	-6,382	-6,864	-6,383	-6,251	-6,470
営業総利益	3,051	3,531	2,605	2,796	3,538	3,502
リスク費用	-855	-1,084	-1,016	-830	-1,044	-911
米司法当局との包括的和解に関わる費用	-5,950	0	-798	0	0	0
営業利益	-3,754	2,447	791	1,966	2,494	2,591
関連会社損益	138	107	78	141	107	35
その他営業外項目	16	-7	-108	13	112	19
税引前利益	-3,600	2,547	761	2,120	2,713	2,645
法人税	-621	-803	-550	-607	-757	-828
少数株主帰属純利益	-96	-76	-101	-155	-191	-232
株主帰属純利益	-4,317	1,668	110	1,358	1,765	1,585
営業収益対コスト比率	68.1%	64.4%	72.5%	69.5%	63.9%	64.9%



(単位: 百万ユーロ)	2Q14	1Q14	4Q13	3Q13	2Q13	1Q13
リテールバンキング(国内市場、欧州・地中海沿岸諸国、バンクウェストのプライベート・バンキングの100%を含む)* PEL/CELの影響を除く						
営業収益	5,859	5,815	5,783	5,833	5,948	5,912
営業費用および減価償却費	-3,577	-3,537	-3,753	-3,626	-3,633	-3,573
営業総利益	2,282	2,278	2,030	2,207	2,315	2,339
リスク費用	-821	-962	-873	-755	-827	-817
営業利益	1,461	1,316	1,157	1,452	1,488	1,522
営業外損益	49	51	17	55	179	60
税引前利益	1,510	1,367	1,174	1,507	1,667	1,582
インベストメント・ソリューションズ帰属純利益	-63	-68	-51	-56	-53	-59
リテールバンキング税引前利益	1,447	1,299	1,123	1,451	1,614	1,523
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	29.6	29.7	30.1	30.3	30.4	30.4
リテールバンキング(国内市場、欧州・地中海沿岸諸国、バンクウェストのプライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	5,725	5,682	5,667	5,722	5,873	5,799
営業費用および減価償却費	-3,511	-3,473	-3,686	-3,562	-3,567	-3,512
営業総利益	2,214	2,209	1,981	2,160	2,306	2,287
リスク費用	-820	-962	-872	-754	-826	-815
営業利益	1,394	1,247	1,109	1,406	1,480	1,472
営業外損益	49	51	18	54	179	60
税引前利益	1,443	1,298	1,127	1,460	1,659	1,532
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	29.6	29.7	30.1	30.3	30.4	30.4
国内市場(フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルクのプライベート・バンキングの100%を含む)* PEL/CELの影響を除く						
営業収益	3,907	3,929	3,864	3,889	3,878	3,862
営業費用および減価償却費	-2,445	-2,425	-2,598	-2,505	-2,460	-2,416
営業総利益	1,462	1,504	1,266	1,384	1,418	1,446
リスク費用	-506	-569	-525	-442	-460	-421
営業利益	956	935	741	942	958	1,025
関連会社損益	-10	7	-2	13	25	19
その他営業外項目	1	0	-2	-1	-2	1
税引前利益	947	942	737	954	981	1,045
インベストメント・ソリューションズ帰属純利益	-60	-67	-50	-56	-53	-57
国内市場税引前利益	887	875	687	898	928	988
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	18.7	18.8	19.0	19.2	19.3	19.5
国内市場(フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	3,781	3,803	3,755	3,784	3,809	3,756
営業費用および減価償却費	-2,384	-2,367	-2,537	-2,447	-2,400	-2,360
営業総利益	1,397	1,436	1,218	1,337	1,409	1,396
リスク費用	-505	-569	-524	-441	-459	-419
営業利益	892	867	694	896	950	977
関連会社損益	-10	7	-1	12	25	19
その他営業外項目	1	0	-2	-1	-2	1
税引前利益	883	874	691	907	973	997
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	18.7	18.8	19.0	19.2	19.3	19.5

\* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む。



(単位：百万ユーロ)	2Q14	1Q14	4Q13	3Q13	2Q13	1Q13
フランス国内リテールバンキング（フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む）*						
<b>営業収益</b>	<b>1,700</b>	<b>1,711</b>	<b>1,698</b>	<b>1,755</b>	<b>1,757</b>	<b>1,712</b>
うち受取利息純額	1,031	1,005	1,025	1,055	1,055	1,010
うち手数料	669	706	673	700	702	702
営業費用および減価償却費	-1,086	-1,078	-1,200	-1,162	-1,097	-1,084
<b>営業総利益</b>	<b>614</b>	<b>633</b>	<b>498</b>	<b>593</b>	<b>660</b>	<b>628</b>
リスク費用	-103	-108	-86	-90	-88	-79
<b>営業利益</b>	<b>511</b>	<b>525</b>	<b>412</b>	<b>503</b>	<b>572</b>	<b>549</b>
営業外損益	1	1	0	1	1	2
<b>税引前利益</b>	<b>512</b>	<b>526</b>	<b>412</b>	<b>504</b>	<b>573</b>	<b>551</b>
インベストメント・ソリューションズ帰属純利益	-32	-40	-27	-35	-32	-35
<b>フランス国内リテールバンキング税引前利益</b>	<b>480</b>	<b>486</b>	<b>385</b>	<b>469</b>	<b>541</b>	<b>516</b>
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	6.7	6.8	6.9	7.0	7.0	7.0
(単位：百万ユーロ)	2Q14	1Q14	4Q13	3Q13	2Q13	1Q13
フランス国内リテールバンキング（フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む）* PEL/CELの影響を除く						
<b>営業収益</b>	<b>1,704</b>	<b>1,712</b>	<b>1,694</b>	<b>1,746</b>	<b>1,712</b>	<b>1,703</b>
うち受取利息純額	1,035	1,006	1,021	1,046	1,010	1,001
うち手数料	669	706	673	700	702	702
営業費用および減価償却費	-1,086	-1,078	-1,200	-1,162	-1,097	-1,084
<b>営業総利益</b>	<b>618</b>	<b>634</b>	<b>494</b>	<b>584</b>	<b>615</b>	<b>619</b>
リスク費用	-103	-108	-86	-90	-88	-79
<b>営業利益</b>	<b>515</b>	<b>526</b>	<b>408</b>	<b>494</b>	<b>527</b>	<b>540</b>
営業外損益	1	1	0	1	1	2
<b>税引前利益</b>	<b>516</b>	<b>527</b>	<b>408</b>	<b>495</b>	<b>528</b>	<b>542</b>
インベストメント・ソリューションズ帰属純利益	-32	-40	-27	-35	-32	-35
<b>フランス国内リテールバンキング税引前利益</b>	<b>484</b>	<b>487</b>	<b>381</b>	<b>460</b>	<b>496</b>	<b>507</b>
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	6.7	6.8	6.9	7.0	7.0	7.0
(単位：百万ユーロ)	2Q14	1Q14	4Q13	3Q13	2Q13	1Q13
フランス国内リテールバンキング（フランス国内プライベート・バンキングの2/3を含む）						
<b>営業収益</b>	<b>1,637</b>	<b>1,642</b>	<b>1,640</b>	<b>1,692</b>	<b>1,695</b>	<b>1,648</b>
営業費用および減価償却費	-1,056	-1,049	-1,171	-1,133	-1,067	-1,056
<b>営業総利益</b>	<b>581</b>	<b>593</b>	<b>469</b>	<b>559</b>	<b>628</b>	<b>592</b>
リスク費用	-102	-108	-85	-90	-88	-78
<b>営業利益</b>	<b>479</b>	<b>485</b>	<b>384</b>	<b>469</b>	<b>540</b>	<b>514</b>
営業外損益	1	1	1	0	1	2
<b>税引前利益</b>	<b>480</b>	<b>486</b>	<b>385</b>	<b>469</b>	<b>541</b>	<b>516</b>
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	6.7	6.8	6.9	7.0	7.0	7.0

\* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む。





(単位: 百万ユーロ)	2Q14	1Q14	4Q13	3Q13	2Q13	1Q13
<b>BNL バンカ・コメルシアーレ (イタリア国内プライベート・バンキングの100%を含む) *</b>						
営業収益	812	819	817	793	811	818
営業費用および減価償却費	-439	-432	-467	-435	-441	-438
営業総利益	373	387	350	358	370	380
リスク費用	-364	-364	-327	-287	-295	-296
営業利益	9	23	23	71	75	84
営業外損益	0	0	0	0	0	0
税引前利益	9	23	23	71	75	84
インベストメント・ソリューションズ帰属純利益	-8	-7	-4	-5	-5	-5
<b>BNL bc 税引前利益</b>	<b>1</b>	<b>16</b>	<b>19</b>	<b>66</b>	<b>70</b>	<b>79</b>
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.8	5.9	6.0	6.1	6.1	6.2
<b>BNL バンカ・コメルシアーレ (イタリア国内プライベート・バンキングの2/3を含む)</b>						
営業収益	796	805	805	780	799	806
営業費用および減価償却費	-431	-425	-460	-427	-434	-431
営業総利益	365	380	345	353	365	375
リスク費用	-364	-364	-326	-287	-295	-296
営業利益	1	16	19	66	70	79
営業外損益	0	0	0	0	0	0
税引前利益	1	16	19	66	70	79
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.8	5.9	6.0	6.1	6.1	6.2
<b>ベルギー国内リテールバンキング (ベルギー国内プライベート・バンキングの100%を含む) *</b>						
営業収益	822	841	805	817	805	810
営業費用および減価償却費	-606	-602	-604	-602	-612	-588
営業総利益	216	239	201	215	193	222
リスク費用	-15	-52	-48	-30	-43	-21
営業利益	201	187	153	185	150	201
関連会社損益	2	3	-1	4	10	3
その他営業外項目	1	0	0	-1	-3	1
税引前利益	204	190	152	188	157	205
インベストメント・ソリューションズ帰属純利益	-18	-19	-19	-14	-15	-16
<b>ベルギー国内リテールバンキング税引前利益</b>	<b>186</b>	<b>171</b>	<b>133</b>	<b>174</b>	<b>142</b>	<b>189</b>
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.4
<b>ベルギー国内リテールバンキング (ベルギー国内プライベート・バンキングの2/3を含む)</b>						
営業収益	782	802	765	782	767	774
営業費用および減価償却費	-584	-582	-582	-582	-590	-569
営業総利益	198	220	183	200	177	205
リスク費用	-15	-52	-49	-29	-42	-20
営業利益	183	168	134	171	135	185
関連会社損益	2	3	-1	4	10	3
その他営業外項目	1	0	0	-1	-3	1
税引前利益	186	171	133	174	142	189
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.4

\* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む。



(単位：百万ユーロ)	2Q14	1Q14	4Q13	3Q13	2Q13	1Q13
<b>パーソナル・ファイナンス</b>						
営業収益	926	921	911	912	941	929
営業費用および減価償却費	-442	-428	-446	-413	-446	-436
営業総利益	484	493	465	499	495	493
リスク費用	-249	-277	-268	-254	-293	-283
営業利益	235	216	197	245	202	210
関連会社損益	22	15	9	19	17	18
その他営業外項目	6	0	-11	-1	3	1
税引前利益	263	231	195	263	222	229
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2
<b>欧州・地中海沿岸諸国 (トルコのプライベート・バンキングの100%を含む) *</b>						
営業収益	489	451	476	476	572	562
営業費用および減価償却費	-348	-335	-364	-359	-381	-375
営業総利益	141	116	112	117	191	187
リスク費用	-50	-105	-64	-59	-62	-87
営業利益	91	11	48	58	129	100
関連会社損益	28	26	21	24	25	19
その他営業外項目	1	0	1	0	110	-1
税引前利益	120	37	70	82	264	118
インベストメント・ソリューションズ帰属純利益	-1	0	1	0	1	-2
欧州・地中海沿岸諸国税引前利益	119	37	71	82	265	116
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	3.5	3.5	3.7	3.7	3.8	3.6
<b>欧州・地中海沿岸諸国 (トルコのプライベート・バンキングの2/3を含む)</b>						
営業収益	487	450	475	475	571	559
営業費用および減価償却費	-347	-334	-362	-358	-379	-374
営業総利益	140	116	113	117	192	185
リスク費用	-50	-105	-64	-59	-62	-87
営業利益	90	11	49	58	130	98
関連会社損益	28	26	21	24	25	19
その他営業外項目	1	0	1	0	110	-1
税引前利益	119	37	71	82	265	116
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	3.5	3.5	3.7	3.7	3.8	3.6

\* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む。



(単位：百万ユーロ)	2Q14	1Q14	4Q13	3Q13	2Q13	1Q13
<b>バンクウェスト (米国プライベート・バンキングの100%を含む) *</b>						
営業収益	537	514	532	556	557	559
営業費用および減価償却費	-342	-349	-345	-349	-346	-346
営業総利益	195	165	187	207	211	213
リスク費用	-16	-11	-16	0	-12	-26
営業利益	179	154	171	207	199	187
関連会社損益	0	0	0	0	0	0
その他営業外項目	1	3	1	1	1	3
税引前利益	180	157	172	208	200	190
インベストメント・ソリューションズ帰属純利益	-2	-1	-2	0	-1	0
バンクウェスト税引前利益	178	156	170	208	199	190
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1
<b>バンクウェスト (米国プライベート・バンキングの2/3を含む)</b>						
営業収益	531	508	526	551	552	555
営業費用および減価償却費	-338	-344	-341	-344	-342	-342
営業総利益	193	164	185	207	210	213
リスク費用	-16	-11	-16	0	-12	-26
営業利益	177	153	169	207	198	187
営業外損益	1	3	1	1	1	3
税引前利益	178	156	170	208	199	190
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1

\* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む。



(単位：百万ユーロ)	2Q14	1Q14	4Q13	3Q13	2Q13	1Q13
<b>インベストメント・ソリューションズ</b>						
営業収益	1,660	1,579	1,635	1,539	1,593	1,558
営業費用および減価償却費	-1,105	-1,075	-1,181	-1,078	-1,068	-1,058
営業総利益	555	504	454	461	525	500
リスク費用	-3	-6	18	1	-14	-7
営業利益	552	498	472	462	511	493
関連会社損益	50	49	26	40	44	40
その他営業外項目	1	-2	-8	1	8	4
税引前利益	603	545	490	503	563	537
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	8.4	8.3	8.1	8.1	8.2	8.2
<b>富裕層向けおよび資産運用</b>						
営業収益	710	679	723	665	696	696
営業費用および減価償却費	-529	-518	-563	-525	-518	-513
営業総利益	181	161	160	140	178	183
リスク費用	-4	-3	3	0	-14	-3
営業利益	177	158	163	140	164	180
関連会社損益	18	12	15	12	15	13
その他営業外項目	1	0	-5	1	6	0
税引前利益	196	170	173	153	185	193
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	1.7	1.7	1.5	1.6	1.6	1.7
<b>保険</b>						
営業収益	538	533	571	517	510	538
営業費用および減価償却費	-267	-253	-307	-257	-255	-257
営業総利益	271	280	264	260	255	281
リスク費用	0	-3	5	1	0	-4
営業利益	271	277	269	261	255	277
関連会社損益	32	37	11	28	29	28
その他営業外項目	0	-2	-3	0	2	4
税引前利益	303	312	277	289	286	309
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	6.2	6.1	6.0	6.0	6.0	6.0
<b>証券管理</b>						
営業収益	412	367	341	357	387	324
営業費用および減価償却費	-309	-304	-311	-296	-295	-288
営業総利益	103	63	30	61	92	36
リスク費用	1	0	10	0	0	0
営業利益	104	63	40	61	92	36
営業外損益	0	0	0	0	0	-1
税引前利益	104	63	40	61	92	35
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6





(単位：百万ユーロ)	2Q14	1Q14	4Q13	3Q13	2Q13	1Q13
<b>コーポレートバンキング・投資銀行</b>						
営業収益	2,232	2,337	2,074	2,043	2,114	2,470
営業費用および減価償却費	-1,550	-1,608	-1,551	-1,429	-1,405	-1,591
<b>営業総利益</b>	<b>682</b>	<b>729</b>	<b>523</b>	<b>614</b>	<b>709</b>	<b>879</b>
リスク費用	-40	-96	-167	-62	-206	-80
<b>営業利益</b>	<b>642</b>	<b>633</b>	<b>356</b>	<b>552</b>	<b>503</b>	<b>799</b>
関連会社損益	25	-4	-3	10	0	16
その他営業外項目	-6	-6	4	3	1	0
<b>税引前利益</b>	<b>661</b>	<b>623</b>	<b>357</b>	<b>565</b>	<b>504</b>	<b>815</b>
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	15.3	15.6	15.5	15.7	15.8	15.6
<b>アドバイザリーおよびキャピタル・マーケット</b>						
(単位：百万ユーロ)	2Q14	1Q14	4Q13	3Q13	2Q13	1Q13
営業収益	1,373	1,580	1,195	1,273	1,267	1,691
営業費用および減価償却費	-1,115	-1,185	-1,077	-1,032	-947	-1,180
<b>営業総利益</b>	<b>258</b>	<b>395</b>	<b>118</b>	<b>241</b>	<b>320</b>	<b>511</b>
リスク費用	11	26	4	15	-83	-14
<b>営業利益</b>	<b>269</b>	<b>421</b>	<b>122</b>	<b>256</b>	<b>237</b>	<b>497</b>
関連会社損益	6	8	-5	4	-3	9
その他営業外項目	-6	-6	4	3	1	0
<b>税引前利益</b>	<b>269</b>	<b>423</b>	<b>121</b>	<b>263</b>	<b>235</b>	<b>506</b>
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	7.8	8.0	8.1	8.2	8.1	7.9
<b>コーポレートバンキング</b>						
(単位：百万ユーロ)	2Q14	1Q14	4Q13	3Q13	2Q13	1Q13
営業収益	859	757	879	770	847	779
営業費用および減価償却費	-435	-423	-474	-397	-458	-411
<b>営業総利益</b>	<b>424</b>	<b>334</b>	<b>405</b>	<b>373</b>	<b>389</b>	<b>368</b>
リスク費用	-51	-122	-171	-77	-123	-66
<b>営業利益</b>	<b>373</b>	<b>212</b>	<b>234</b>	<b>296</b>	<b>266</b>	<b>302</b>
営業外損益	19	-12	2	6	3	7
<b>税引前利益</b>	<b>392</b>	<b>200</b>	<b>236</b>	<b>302</b>	<b>269</b>	<b>309</b>
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	7.5	7.6	7.4	7.5	7.6	7.6
<b>コーポレート・センター</b>						
(単位：百万ユーロ)	2Q14	1Q14	4Q13	3Q13	2Q13	1Q13
営業収益	-49	315	93	-125	209	145
営業費用および減価償却費	-351	-226	-446	-314	-211	-309
うち事業再編および変革費用	-207	-142	-287	-145	-74	-155
<b>営業総利益</b>	<b>-400</b>	<b>89</b>	<b>-353</b>	<b>-439</b>	<b>-2</b>	<b>-164</b>
リスク費用	8	-20	5	-15	2	-9
米司法当局との包括的和解に関わる費用	-5,950	0	-798	0	0	0
<b>営業利益</b>	<b>-6,342</b>	<b>69</b>	<b>-1,146</b>	<b>-454</b>	<b>0</b>	<b>-173</b>
関連会社損益	23	14	26	36	-4	-77
その他営業外項目	12	-2	-93	10	-9	11
<b>税引前利益</b>	<b>-6,307</b>	<b>81</b>	<b>-1,213</b>	<b>-408</b>	<b>-13</b>	<b>-239</b>



一時項目が重大な影響を及ぼすも、かかる特別項目を除けば純利益は 19 億ユーロの好業績を達成.....	2
リテールバンキング事業.....	4
国内市場部門.....	4
インベストメント・ソリューションズ事業.....	10
コーポレートバンキング・投資銀行 ( CIB ) 事業.....	11
コーポレート・センター.....	12
財務構造.....	13
連結損益計算書.....	15
2014 年度第 2 四半期 – コア事業部門別業績.....	16
2014 年度上半期 – コア事業部門別業績.....	17
連結四半期業績の推移.....	18

本プレゼンテーションに含まれる数値は、未監査の数値です。2014 年 3 月 14 日に、BNP パリバは、2013 年度の四半期決算に関わる修正を発表しました。かかる修正には次の 4 点が特に反映されています。(i) IFRS 第 10 号「連結財務諸表」、および IFRS 第 11 号「共同支配の取決め」、ならびに改訂 IAS 第 28 号「関連会社及び共同支配企業に対する投資」を適用しました。なお、IFRS 第 11 号の適用により、グループの 2013 年度株主帰属純利益に対して、1400 万ユーロの押し下げ効果が生じています。(ii) 中期事業計画を念頭に置き、2014 年 1 月 1 日をもって、特定の業務および業績が、グループ内部で移管あるいは振替えられました。(iii) バーゼル 3 基準の適用により、部門別および業務ライン別の配賦資本の修正がなされました。(iv) 流動性に関わるコストを事業部門へ賦課する慣行を、流動性カバレッジ比率 (LCR) のアプローチに沿うように調整しました。さらに、今後の 2014 年度決算報告との比較可能性を確保するために、TEB (トルコ・エコノミ・バンカシ) グループに対して 2013 年度を通して全部連結を適用していたとみなす、2013 年度の見積財務諸表が作成されています。これら修正後の決算報告において、2013 年度に関わる数値は、あたかも取引が 2013 年 1 月 1 日に実行されたかのように表示されています。本プレゼンテーションは、修正された 2013 年度の四半期数値に基づいています。

本プレゼンテーションには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれています。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNP パリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNP パリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルもしくは BNP パリバの主要地域市場における経済状況の変化、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。実際の業績は、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは大きく異なる可能性があります。本プレゼンテーションに含まれるいかなる予測的な記述も本プレゼンテーション発行日現在の予測であり、BNP パリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正もしくは更新する責任を負いません。

本プレゼンテーションに含まれる BNP パリバ以外の第三者に関わる情報もしくは外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独立に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表示または保証を表現あるいは示唆してはならず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に関しては確実なものではありません。BNP パリバもしくはその代表者ともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレゼンテーションあるいはその内容の使用により生ずる、もしくは本プレゼンテーションやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。